

原町小学校訪問

アメリカのカンザス州オーレーズにあるリッジビュー小学校の幼稚園教諭であるローデス・バス先生と、図書館司書のドーン・マーサー先生が訪れたのは、目黒区立原町小学校である。二人の先生たちは、4年生の2クラスの生徒たちに授業を届けた。教室に到着した先生たちは、まず、マーサー先生が制作した学校紹介映像をプロジェクターに映し出した。登校場面から下校場面までの一連の流れが追体験できるような映像である。子どもたちは、朝食の場面をみて、「朝ごはんが出るの?」と驚いたり、体育の授業が自由な服装で行われている様子を見て、「え、私服?」とあって質問をしたり、興味津々の様子であった。

映像が終わると、早速先生たちは、授業を開始した。カンザスの名物についての大きな絵を生徒たちに見せ、それを英語で紹介した。ひまわり、バッファロー、サンショウウオ…。生徒たちは、それらの新しい言葉をひとつひとつ繰り返していき、覚えていった。次に先生たちは、先ほど生徒たちが習ったばかりのカンザス名物に関連する3つのアクティビティのやり方について紹介した。ひまわりの工作、カンザス名物の動物や花の塗り絵、そして、カンザス名物ビンゴである。子どもたちは3つのグループに分かれて、アクティビティに順番に取り組んだ。

授業や休み時間での交流を通じて印象的だったことは、しばしば通訳を介さずに、むしろ通訳者以上に素早くその場の状況や生徒の心情を察知する先生方の様子であった。生徒と目を合わせ、言葉が伝わっているか、ひとつひとつ確かめるように意思疎通しようとする先生方の様子が心に残っている。

(博士課程 住野満稲子)